

◆帆苺謙治委員 片野委員が越後杉について触れておりましたが、私も全くそのとおりでと思って聞いておりました。私が言いたいことは、片野委員の言ったことに尽きるのですが、阿賀野市でも住宅リフォームに対する支援事業を行いました。屋根のふき替えもそうですし、越後杉を使うこともそうですが、住宅建築も含めて住宅リフォームの経済効果が、公共工事もけっこう大きいのですが、いちばん経済波及効果が大きいという話を聞いております。それはどのくらいになるのかというと、8倍から9倍くらいだということを知りました。やはり効果が大きいと思っております。

県の補助というのは、そんなにいいものではないかもしれないけれども、しかし誘導策としては有効だと。そしてまた、投資効果は、8倍にも9倍にもなると。それも県内産業が全部伸びていくということになると、要望がある限り、予算はある程度増やす必要があるのではないかと。こういう観点から、若干質問させていただきます。

ハウスメーカーというものは、県内企業もありますが、大手にシフトしたようなところもあります。そこからすると、和建築といいますか、県内産の材木を使って、県内の水道業者、左官業者、屋根工事業者を使って、すべてが県内の地場の産業で成り立っているということからすると、非常に経済波及効果が大きいと思っております。そういった中で、ふるさと越後の家づくり事業は人気があるわけですが、今、補助額は何段階あるのですか。越後杉ブランドの使用量によって、50万円とか、40万円とか、30万円とかあると思うのです。昨年度から一律40万円に落ちたのですか。その辺を聞かせてください。

◎二野宮雅宏林政課長 ふるさと越後の家づくり事業の支援の補助額の段階についてのお尋ねですが、今年度から、越後杉ブランド使用量に応じたものに変えております。10万円から10万円刻みで40万円までになっております。

◆帆苺謙治委員 それは要望が多くてそうなったのかもしれませんが、やはり50万円だったものが40万円になると、少ない感じがするのです。今、プレカットといった工法もあります。安くできればいいだろうということに対抗するには、ある程度の補助金があったほうが、非常に越後杉を利用しやすいと思っております。

例えば、今、県内産かわらも一体となってやらせてもらっている。左官業者に対して、あるいは住宅建築の地場の業者に対して、例えば限度100万円だとか、そういう方法があるとするならば、非常に経済効果が上がると。雇用もよくなるということだと思っております。したがって、お願いといいますか、提言なのですけれども、片野委員も言われていたけれども、やはり農林水産部の林政課は、森を守って、そして材木の供給をすればいいというのは一つの大きな方策ですが、経済的なことからいけば、産業労働観光部もある。そしてまた、住宅面からいけば、建築住宅課もある。したがって、こういう一連の中でこれを推進していくとするならば、部局横断になるわけがございます。プロジェクトチームでもいいのだけれども、知事政策局があるのだから、そういうところをキャップにして、今、困っている雇用の場とか、そういうものに光を当てていくという方法があってもいいのではないかと思うのです。今後、

そういう検討をして、プロジェクトチーム的なものを作って、林政課は林政課、おれたちはおれたちで行くぞというのではなくて、トータルとしてやっていくような方法があってもいいのではないかと思います、どうですか。

◎二野宮雅宏林政課長 現在、行っております事業を含めまして、家づくりにかかわる事業の連携についてのお話でございます。私どもは、この事業を実施するに当たりましては、もちろん関係部局とさまざまな連携を取らなければいけない面もございますし、委員御指摘のありました地場産かわら等も含めまして、例えば、かわらを使って、越後杉を使って、地元の建具を使ったような町並みづくりを行った場合などを支援した例もあります。そういう意味で、他部局との連携については、従来もやっていたところではございますが、今ほどのお話のように、今まで以上に連携を強めてやっていくということについては、全くそのとおりだと思っているところです。

なお、事業そのものにつきましては、不断の見直し等も日々検討しながら、より私どもにとって効果があるような、県産材が使われて、それが森林の循環につながっていくという観点で、前向きに取り組んでいきたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 林政課長はまじめだから自分の分野のことを言っておられますが、やはり連携というのは、単なる連携だけではなくて、やはり一つのプロジェクトチームなり、そういう方法でやっていると。はっきり言いまして、林政の場合は、それこそ超党派で議員全員が入ってやっている側面もあります。これは、森林だけをよくしてもしょうがないのです。伐採をして、林業として成り立つ方策を作らなければならない。そういうことになれば住宅建築しかないのです。住宅建築であれば、産業労働観光部もあるだろうと。何回も言いますが、そういうことで、知事政策局あたりと相談をして、そして何かを立ち上げていくということがあってもいいのではないかと提言したのです。農林水産部長も庁議の場で、こういう話もあるということを書いて、いい方法だと思うというくらいのことを書いていただければありがたいと思いますが、どうですか。

◎目黒千早農林水産部長 森林、あるいは木材産業に関する施策に限らず、さまざまな施策目標に対して、多様な方向からアプローチして効果を得ていくということは、大変重要なことだと考えております。今回、お話の住宅建築につきましても、農林水産部、産業労働観光部、土木部、そして、かじ取り役である知事政策局と多様な部局がかかわってくる問題だと思っておりますので、それぞれの組織が持つ力を効果的に発揮できるように、有機的に連携した事業展開が行われるように、今ほどの委員の御提案は大変重要なことを含んだものだと思います。知事政策局並びにそれぞれの部局に対しまして、今ほどの委員のお話を伝えさせていただきまして、より効果的な体制で事業執行できるように検討してまいりたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 ぜひお願いしたいと思います。もう1点、簡単に質問させてもらいます。もう20年近く続いていると思うのですが、国の事業で始まった海外農業研修生の受け入れをやってまいりました。これは国の補助金が打ち切られるということで県単独事業ということでお願いをして、継続になったと記憶しております。私も、たまたま地元で研修生の受け入れをされている会長さんがおられたものから、仲間になってずっと応援してまいりました。研修では6か月以上いらっしゃるのですよね。たしか4月に来て11月にお帰りになるのでしょうか。それだけ長期間、農家に滞在して、そしてノウハウを勉強して持ち帰っていく。ASEAN諸国では、今、インドネシアがいちばん大勢のようでありますけれども、それぞれみんな目をきらきらさせて頑張っておられます。いい事業だと思っておりますし、毎年六、七人が来られる。これもいいなと。今、国と国との間が非常にぎくしゃくしている中で、草の根交流ということで、非常に効果があるということも言われているわけです。

私も県議会議員2期めのとき、インドネシア農業省と交流するというので、県で訪問団を作って、インドネシアの研修生の家庭をピックアップして、五、六か所回ったことがあります。そのとき、若輩でございましたけれども、私が団長として行かせてもらいました。柄沢議員が副団長ということで、あとは県の職員、あるいは市町村のかたがたも行かれたということがあります。すべて自費ではありましたが。今まで、こういういい事業を実施しているのだから、彼らが国へ帰って、今、何をしています、どういう効果があったのかを検証する必要があると思うのです。我々が行ったのは十六、七年前だと思います。それからだれも行っていないと思うのです。

したがって、経営普及課長が中心になるのか分かりません。課長、部長が行くことができればいちばんいいのだろうけれども、どういう効果があったのか、今後どうすべきかということを検証する必要がある。受入農家のかたがたからも、また行ってみたい、行きたいという声も聞いておりますので、前向きに検討してもらいたい。県の職員を派遣すれば、交通費は多少かかるかもしれないけれども、これから検討する必要があると思うのです。したがって、こういうことが必要だと思うのです。今後、近い将来、10年に1回くらいは行かなければならないと思うのです。そういうことで、そういうお考えがあるか、ぜひ来年度予算あたりに上げて、農林水産部長が残るのかどうか分かりませんが、1回くらい行って見てくるということについて、どういうお考えですか。お願いします。

◎目黒千早農林水産部長 ASEAN諸国からの農業研修生の受け入れは、委員のかたがたにも大変御尽力いただいております。地域段階での国際交流という側面もございまして、実際、これまで受け入れた研修生のかたがたは、それぞれ国に戻られて、各地域での農業の中心的な役割を担われているというようなお話を伺っております。

また、県内で受け入れてくださっている農家のかたがたは研修生が帰られた後も、引き続いて連絡を取りながら、交流を深めていらっしゃるというお話も伺っているところでございます。

先日も、今年度、研修に来られたかたがたの修了式とございますが、成果の発表会に私も参加させていただきまして、研修生のかたがた、それから受け入れ農家のかたがた双方のお話を聞かせていただいたところでございます。これは大変有意義な事業だと、私自身考えておりますし、これから末永く続けていかなければならないだろうと。委員のおっしゃるとおり、続けていくには、その成果というものを時々確認する必要もあろうかと考えております。具体的にどういった方法がいいのかということ、今、

ここで申し上げることはできませんが、委員の御質問の趣旨を十分理解したうえで、検討させていただきたいと思います。

◆帆苺謙治委員 現地に行かなければ分からないのです。私は、自分では人相がいいと思っているのですが、あまり人から評価されないのです。それはさておいて、私はインドネシアに行きました。田舎の人が大勢いるのです。そうすると外国人、日本人などを見たことのない人ばかりなのです。子供たちなど、走って触りに来るのです。そのくらいの田舎に行くということです。日本へ研修に行ってきた人は、村長さんより偉いのです。そういうことも見てきたほうがいいし、そしてどういうポジションにいるのかも見てきたほうがいい。現地に行かないと分からないと思います。3メートルもある虎がいるそうです。それは見ませんでしたけれども、そういうこともあると。

一方では、ジャカルタあたりに行くと、近代的なこともやっていることは確かです。ハンディキャップもあるけれども、日本の農業というのものはものすごく理解されていると感心して、自分なりに誇りに思ったことがありますので、農林水産部長も1回くらい行ったほうがいいですよ。来年度の予算に盛り込んでもらうかどうか。

◎目黒千早農林水産部長 百聞は一見にしかずという言葉は、まさにそのとおりだと思っております。自分で体験したものほど、自分で納得できることはございませんので、いろいろな場面で、まずは自ら体験するという心を置きながら、職務に当たってまいりたいと考えております。